

研究活動報告

特別講演会

フランソワ・エラン「人口高齢化と出生力：フランスの少子化対策と課題」

フランス国立人口研究所 (INED) のフランソワ・エラン (François Héran) 所長が来日し、9月22日、本研究所で標記の講演をおこなった。エラン所長は1953年生まれで、INSEE (フランス国立統計経済研究所) や INED の研究職をつとめた後、1999年に INED の6代目所長に就任した。現在、ヨーロッパ人口学会 (European Association for Population Studies) 会長でもある。移民、労働市場、社会統合など人口問題の幅広い分野に多数の研究業績を挙げているが、特に今回はフランスの人口高齢化と出生力に関連した政策課題についてお話しいただいた。

フランスは先進国の中で「例外」ともいえる比較的高い出生力を保っている国であり、わが国でも大きな関心が寄せられている。エラン所長は長い歴史を持つフランスの家族政策について詳しく述べたが、政策の出生力に及ぼす効果の評価という点では説明はなお不十分という。また人口高齢化の面では、日本の高齢化はフランスより一段と進行しており、むしろ日本から多くのことを学びたいと語った。なおエラン所長の著書『移民の時代：フランス人口学者の視点』が林昌宏氏の翻訳により数日前に明石書店より出版されたことが紹介された。

当日は所内外から多数の専門家が来聴し、質疑応答も中身の濃いものであった。これを機に日本とフランスの研究交流が盛んになることが望まれる。
(佐藤龍三郎記)

日本人口学会第60回大会

日本人口学会 (会長：高橋眞一・神戸大学名誉教授) の第60回大会は2008年6月7日～8日、日本女子大学目白キャンパスにて開催された。阿部隆・大会運営委員長 (日本女子大学人間社会学部教授) のご尽力により142名の参加者があり (うち会員は112名)、2日間にわたって活発な研究発表と討議がおこなわれた。シンポジウム、テーマセッション (1, 2, 3) および7部会12セッションに及ぶ自由論題報告の組織者、報告題目、討論者等は以下の通りである。

シンポジウム「少子化社会とワークライフバランス」

<組織者>阿部 隆 (日本女子大学)

<座長>安藏 伸治 (明治大学)

<討論者>阿藤 誠 (早稲田大学)

渡辺真知子 (明海大学)

1. 日本におけるワークライフバランス論 大沢真知子 (日本女子大学)

2. ヨーロッパにおけるワークライフバランス論 権丈 英子 (亜細亜大学)

3. 企業社会におけるワークライフバランス論 花田 光世 (慶應義塾大学)

テーマセッション1「人口とライフコースの計量分析・Part II」

<組織者>金子 隆一 (国立社会保障・人口問題研究所)

- <座長>原 俊彦 (札幌市立大学)
 <討論者>中澤 港 (群馬大学)
 廣嶋 清志 (島根大学)
1. 家族構造と人口事象の地域性 加藤 彰彦 (明治大学)
 2. わが国における40歳時無子の傾向と要因に関する考察—家族形成行動の観点から— 菅 桂太 (国立社会保障・人口問題研究所)
 3. わが国における結婚と家族形成のパターンと要因のイベントヒストリー分析 津谷 典子 (慶應義塾大学)
 4. 出生力のライフコース変動と人口変動 金子 隆一 (国立社会保障・人口問題研究所)

テーマセッション2「人口・家族政策の評価—少子化対策の効果を問う—」

- <組織者>加藤 久和 (明治大学)
 <座長>高橋 重郷 (国立社会保障・人口問題研究所)
 <討論者>河野 稠果 (麗澤大学)
 杉野 元亮 (九州共立大学)
1. 出生率の将来シミュレーションに基づく少子化対策効果の分析 増田 幹人 (東洋大学)
 2. 人口・家族政策評価に対する持続可能性指標の応用 ... 野上 裕生 (日本貿易振興機構アジア経済研究所)
 3. 「次世代育成支援対策に関する自治体調査」調査結果報告 安藏 伸治 (明治大学)
鎌田 健司 (明治大学)
 4. 市区町村の次世代育成支援の規定要因 松田 茂樹 (第一生命経済研究所)

テーマセッション3 社会経済格差と人口現象：歴史人口学的視点から

- <組織者>黒須 里美 (麗澤大学)
 <座長>鬼頭 宏 (上智大学)
 <討論者>斎藤 修 (一橋大学)
 津谷 典子 (慶應義塾大学)
1. 近世日本の死亡危機と社会経済階層—天保八年飢饉と南関東一山村の社会構造— 戸石 七生 (日本学術振興会)
吉田あつし (筑波大学)
 2. 結婚と社会経済格差：都市と農村の比較1708-1870年 黒須 里美 (麗澤大学)
高橋美由紀 (日本学術振興会)
 3. 石見銀山領の宗門別出生率：浄土真宗は高いか？ 廣嶋 清志 (島根大学)
 4. 旗本の出生力に関する検討 村越 一哲 (駿河台大学)
 5. 伝統中国の家族内格差と人口現象：多世代間分析 梅野 祐樹 (一橋大学)

自由論題報告【第1部会】

- <座長>高坂 宏一 (杏林大学)
1. 何故、人々は帰還するのか？：タイの人口移動マイクロデータを用いた計量分析 栗田 匡相 (早稲田大学)
 2. タイからドイツへの国際結婚移動 中川 聡史 (神戸大学)

3. カンボジアのピア・エデュケーション—その現実と課題 …………… 池上 清子 (国連人口基金)
 鈴木 隆文 (国連人口基金)
 森田系太郎 (国連人口基金)

＜座長＞嵯峨座晴夫 (早稲田大学)

4. 2010年ラウンド人口センサスの実施手法に関する世界的潮流とラテン・アメリカ
 …………… 藤田 峯三 (UNICOインターナショナル株式会社)
5. 在日ムスリムにおける配偶関係の規定要因 …………… 小島 宏 (早稲田大学)
6. 岐阜県における外国人労働者の実態と特徴—日系ブラジル人と中国人の比較—
 …………… 伊藤 薫 (岐阜聖徳学園大学)

自由論題報告【第2部会】

＜座長＞早瀬 保子 (元日本貿易振興機構アジア経済研究所)

1. 上海市都心部における昼間人口の特徴 …………… 康 雯琴 (東京農工大学)
2. 中国農村部における高齢者生活に関する研究—雲南省の実態調査から
 …………… 馮 文猛 (日本学術振興会)
3. 中国都市部における高齢者生活に関する研究—上海市の実証調査から
 …………… 聶 海松 (東京農工大学)

＜座長＞若林 敬子 (東京農工大学)

4. 韓国における子どもに対する親の教育投資 …………… 曹 成虎 (慶応義塾大学)
5. 韓国・台湾の低出生力 …………… 鈴木 透 (国立社会保障・人口問題研究所)

自由論題報告【第3部会】

＜座長＞石川 義孝 (京都大学)

1. 夫婦出生力の地域間格差 …………… 佐々井 司 (国立社会保障・人口問題研究所)
2. 東京圏の人口移動と出生率の分布の変化 …………… 坂西 明子 (奈良県立大学)
3. 最近の日本における地域別出生力と地域人口 …………… 高橋 眞一 (新潟産業大学)
4. 日本における出生性比の地理的不均一性：市区町村データを用いた
 空間統計学分析 …………… 井上 陽介 (東京大学)
 梅崎 昌裕 (東京大学)

自由論題報告【第4部会】

＜座長＞井上 孝 (青山学院大学)

1. 市町村別のコーホート累積社会増加比—長野県の事例 …… 清水 昌人 (国立社会保障・人口問題研究所)
2. 地域別将来人口推計の人口移動モデルに関する考察 …… 小池 司朗 (国立社会保障・人口問題研究所)
3. 潜在的他出者仮説の再検討—親の移動を考慮して— …………… 丸山 洋平 (慶応義塾大学)
 大江 守之 (慶応義塾大学)

＜座長＞森岡 仁 (駒澤大学)

4. 札幌市の少子化：日本の政令指定都市の中で見た人口学的特徴 原 俊彦 (札幌市立大学)
5. わが国の道州制導入論議と人口問題 …………… 永井 保男 (東京女学館大学)

6. ミクロおよびマクロレベルからみたわが国における少子・高齢化の特異性

- 小川 直宏 (日本大学人口研究所)
松倉 力也 (日本大学人口研究所)
根本 和郎 (総務省統計局)

自由論題報告【第5部会】

- <座長>梅崎 昌裕 (東京大学)
1. 先進国および開発途上国における寿命の動向 別府 志海 (国立社会保障・人口問題研究所)
2. 要介護高齢者の現状と将来動向—我が国とOECD諸国との比較—
..... 小島 克久 (国立社会保障・人口問題研究所)
3. 自殺の発生病理と人口構造 池田 一夫 (東京都健康安全研究センター)
灘岡 陽子 (東京都健康安全研究センター)
倉科 周介 (老人保健施設ケアセンター阿見)
- <座長>兼清 弘之 (明治大学)
4. ロシア極東の人口動態 田畑 朋子 (北海道大学)
5. マルサスの人口論とチェルヌイシェフスキーのマルサス批評
..... 京極 高宣 (国立社会保障・人口問題研究所)

自由論題報告【第6部会】

- <座長>三浦 由己 (駿河台大学)
1. 日本の人口統計体系の整備のあり方に関する一考察 佐藤龍三郎 (国立社会保障・人口問題研究所)
2. 世帯動態統計作成の試み 山口 幸三 (一橋大学)
3. 平成17年国勢調査結果の分析について 野呂 竜夫 (総務省統計局)
仲西 章 (総務省統計局)
- <座長>伊藤 薫 (岐阜聖徳学園大学)
4. 「非親族の男女の同居」の最近の状況 西 文彦 (総務省統計研修所)
菅 まり (総務省統計局)
5. 国勢調査結果からみた親子の同居について 松村 迪雄 (独立行政法人統計センター)
6. 同居児法による産業別出生率の2005年推計試算 伊原 一 (総務省統計研修所)
7. 休業者百万人の分析 佐藤 哲彰 (総務省統計局)

○自由論題報告【第7部会】

- <座長>加藤 彰彦 (明治大学)
1. 妊娠先行型結婚とその後の生活 ジェームズ・レイモ (ウィスコンシン大学)
岩澤 美帆 (国立社会保障・人口問題研究所)
2. 法律婚に基づく婚姻・離婚のコーホート分析 石川 晃 (国立社会保障・人口問題研究所)
3. 低出生と夫婦間の性交渉の頻度について 森木 美恵 (日本大学人口研究所)
小川 直宏 (日本大学人口研究所)
松倉 力也 (日本大学人口研究所)
4. 日伊の比較からみた家庭内の就業と家事の役割分担 吉田 千鶴 (関東学院大学)

5. 地方自治体の将来人口推計と人口関連施策への認識—アンケート調査の結果より—

..... 山内 昌和 (国立社会保障・人口問題研究所)
西岡 八郎 (国立社会保障・人口問題研究所)
小池 司朗 (国立社会保障・人口問題研究所)

なお初日の会員総会において学会賞の授賞式がおこなわれ、和田光平会員 (『Excel で学ぶ人口統計学』オーム社, 2006年9月) に普及奨励賞, 小林淑恵会員 (『結婚・就業に関する意識と家族形成: 循環モデルによる検証』『人口学研究』第39号, 2006年11月) に優秀論文賞, 大友篤会員 (『続人口でみる世界: 人口変動とその要因』古今書院, 2006年11月) に学会特別賞が授与された。

(佐藤龍三郎記)

日本人口学会2008年度・第1回東日本地域部会

日本人口学会の2008年度第1回東日本地域部会が2008年9月12日, 札幌市立大学サテライトキャンパス (北海道札幌市) にて開催された。人口移動に関する報告が多数を占め, 地域部会の特性を活かした丁寧なプレゼンテーションと活発な質疑が交わされた。報告タイトルと発表者は下記の通りである。

1. 「所属世帯別高齢人口の将来動向と変化要因の分析
—日本の世帯数の将来推計 (全国推計: 2008年3月推計) の結果分析—」
山内昌和・西岡八郎・鈴木透・菅桂太 (国立社会保障・人口問題研究所)
2. 「都道府県間人口移動流のモデル化とその経年変化分析」
小池司朗 (国立社会保障・人口問題研究所)
3. 「団塊世代の農村定住条件と就農条件—郵送調査とインターネット調査の比較による考察」
飯坂正弘 (独立行政法人/農業・食品産業技術総合研究機構)
4. 「2005年の市町村間通勤マトリックスと通勤圏設定の試み」
大林千一 (帝京大学)
5. 「1970年代までの東北と北海道の間の『移民』と『出稼ぎ』」
阿部 隆 (日本女子大学)
(山内昌和記)

日本地理学会2008年秋期学術大会

日本地理学会2008年秋期学術大会は, 10月4日・5日の両日, 岩手大学 (岩手県盛岡市) において開催され, 例年同様, 幅広い分野における報告やポスター発表があった。今回は東北地方での開催ということで, 『新「東北の将来」を語る』と題したシンポジウムが企画され, 多数の参加者でにぎわった。本シンポジウムでは趣旨説明の後, 日本女子大の阿部隆教授より「東北の人口—過去, 現在, そして未来?」のタイトルで東北地方における将来人口の試算推計結果などが報告され, 続いて都市・工業・農林業など地理学に関連する様々な研究領域からの報告と総合討論が行われた。人口減少問題は全体を通して強く認識されており, 様々な社会経済活動の基盤としての注目度は非常に高かった。厳しい状況には変わらない東北地方であるが, 従来時代の流れにあまり左右されなかったことは有形・無形の資源残存につながり, 今後の人口減少社会ではそれらが再評価される面もあるのではないかと感じた。